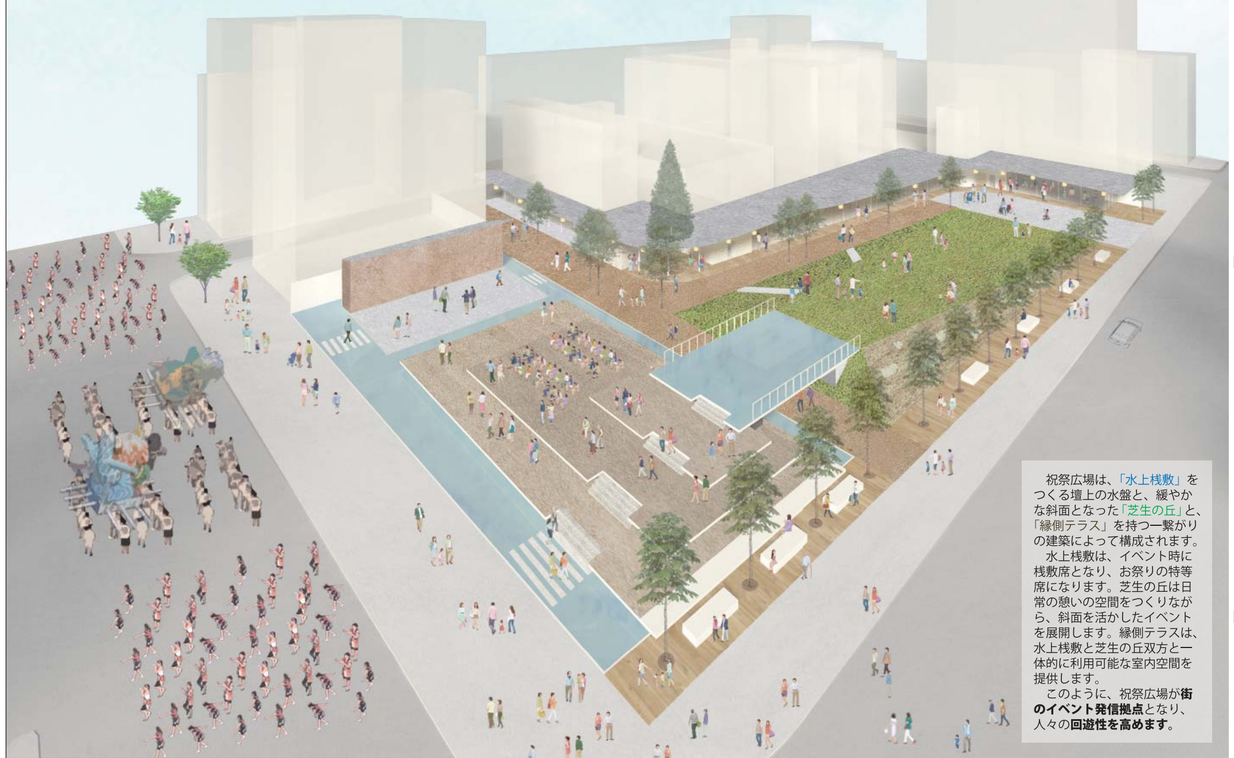
小さな森の水上祝祭桟敷　「御堀」と「小さな森」が融合した祝い・集い・憩いの交流広場

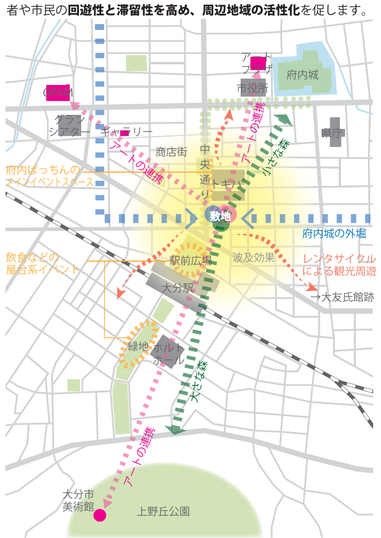
大分駅周辺には、商店街を取り囲むようにアート・イベント等の魅力的な公共施設や都市空間が充実しています。
この都市広場は、憩いの場として普段使いされるスペースや周辺施設で行われるイベント等の**情報を発信する拠点**として整備するとともに、**街（ステージ）を支える「桟敷（客席）」**として計画地を見立て、**まち全体が祝祭空間**となるような場を提案します。



祝祭広場は、「水上桟敷」をつくる壇上の水盤と、緩やかな斜面となった「芝生の丘」と、「縁側テラス」を持つ一繋がりの建築によって構成されます。
水上桟敷は、イベント時に桟敷席となり、お祭りの特等席になります。芝生の丘は日常の憩いの空間をつくりながら、斜面を活かしたイベントを展開します。縁側テラスは、水上桟敷と芝生の丘双方と一体的に利用可能な室内空間を提供します。
このように、祝祭広場が**街のイベント発信拠点**となり、人々の**回遊性を高めます**。

■計画地の資質：水と緑とアートの結節点

御堀や城壁といった歴史的な文脈としての水系や、上位計画に合わせた**「小さな森」**としてのランドスケープ、充実した**既存のアート施設**という３つの要素を結びつける空間として広場を位置づけます。また、**周辺の施設・イベントとの棲み分け**を図り、他の観光施設との連携を図るために**レンタサイクルを導入**するなどして、来街者や市民の**回遊性と滞留性を高め、周辺地域の活性化**を促します。



■計画概要

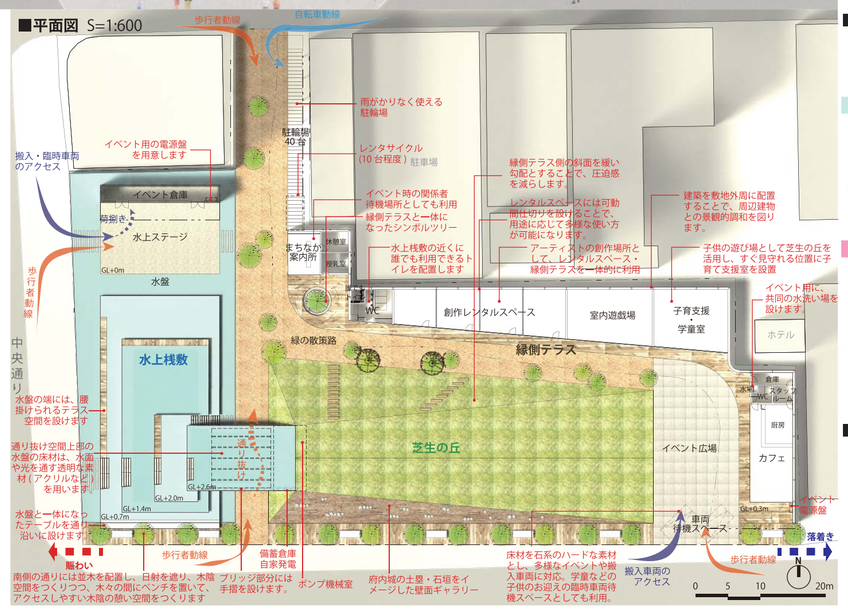
敷地面積：4304.43 ㎡
建築面積：935.58 ㎡
延床面積：581.62 ㎡
建蔽率：21.74%
容積率：13.51%
建築規模：地上１階
建築物の最高高さ：4.5m
最高軒高：4.5m

水盤面積：1149.32 ㎡
芝生面積：1069.92 ㎡

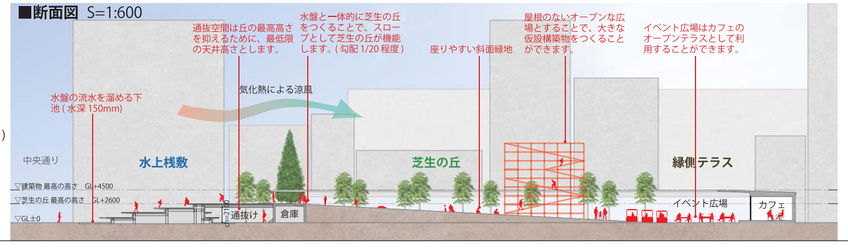
主な外部仕上
水盤内面：黒御影石（水磨き）
水盤外面：白色モルタル
水上ステージ：
イベント広場：白御影石（バーナー仕上）
縁側テラス・デッキ部：大分杉
縁の散策路：ウッドチップ

建築部屋根：ガルバリウム鋼板
建築部建具：大分杉

■平面図　S=1:600



■断面図　S=1:600

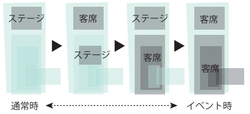


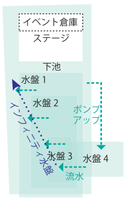
■祝いと賑わいを演出する水上桟敷と、それを支えるまちなかのオアシスとしての水盤システム①

中央通りに面して、祝祭空間の演出装置として、壇状の水盤を設けます。周辺地域は海抜が低いため、**地下水に配慮**して、立体的な水盤をつくります。**水盤の水深を浅く**することで、日常時には、子供が水遊びできる空間となり、イベント時には、水を抜くことで、**客席やステージとして利用**します。

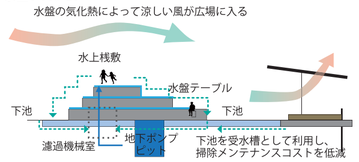
水盤の構成は、水上イベントを行いやすいように、水面を広く確保し、水盤の数を限定した**シンプルな構成**とします。
ステージには、搬入倉庫と一体的に、部分的な屋根を設け、**雨天時の演出に配慮**します。

水盤変化のバリエーション





水盤システム



水盤の水は桟敷下部に設けられた地下ポンプピットから一番高い桟敷へと上げられ、下池へ向かって自然流水します。下池に溜まった水は濾過機械室・地下ポンプピットへと集水され、浄化・循環する計画とします。下池は受水槽として機能し、**掃除等のメンテナンスコストを抑える**よう配慮します。
また、桟敷から下池へと循環する**水の気化熱**により、広場に涼風の流れる**まちなかのオアシス**のような場所をつくります。

■まちなかの憩いとしての祝祭広場のみどり②

1. 地域のランドマークとしてのみどり
ＪＲ大分駅府内中央口の正面に位置する祝祭広場へはメタセコイヤの大木を植栽し、**地域のランドマーク**とします。冬季には、メタセコイヤの円錐形のフォルムを活かしたイルミネーションを展開し、大分駅前の新たな名所とします。

2. 地域の環境を整えるみどり
公園内へは**小さな森**を整備し、大分都心南北軸トータルデザインコンセプトの「小さな森から大きな森へ」との調和を図ります。この小さな森は、実の成る木々を中心により構成し、子どもたちの環境教育の場としての活用も目指すとともに、道路沿いへは並木を整備し、公園利用者や沿道歩行者へ**良好な緑陰**を提供します。

3. 祝祭広場を彩る花とみどり
建物庇を活用した空中花回廊を展開し、祝祭広場へ**季節の彩りを添える花景観**を展開します。空中花回廊は、大分市民との協働により管理・運営を行うことにより、市民が育てた花による都市緑化の実現を目指します。

4. 触れあえる祝祭広場のみどり
祝祭広場の中央部分を芝生広場として整備し、みどりと触れあえる環境を提供します。この芝生広場は、ウィークデーの憩いの場や子どもの遊び場としての活用を図るとともに、週末のイベント広場としての活用を目指します。直接触れるみどりへの配慮として、**耐病性が高く低農薬管理が可能な芝生**（改良ノシバ等）を導入し、安全・安心な芝生広場の維持を目指します。

5. 良質なみどりを育む植栽基盤
地下水位が高い計画地の特性に配慮し、**根腐れを予防する排水対策**を講じます。植栽基盤・芝生土壌を適切に整備し、良好な樹木・芝生の育成へ配慮します。斜面の土は**建設残土を利用**します。

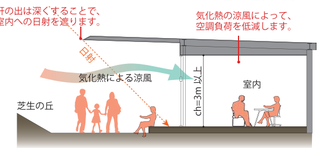
斜面を運動広場利用する参考事例

憩いとしての斜面緑地の参考事例

「空中花回廊」の参考写真

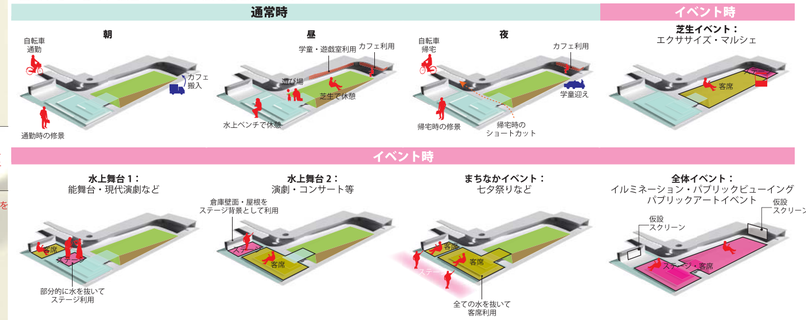
■快適な集いを生む創作空間としての縁側テラス③

広場空間を支え、**周辺建物を隠す背景**として帯状に連続する建築を設えます。ここでは、人が腰掛けることができるような縁側テラス（GL+300mm）を設け、軒の出の深い空間とすることで、**日影と雨除けとなる空間**をつくります。テラス空間には、誰でも利用できる電源と wifi を備え付け、可動机を利用することで、**日常的なワークスペース**として使うことができます。連続する庇空間には、花や提灯を飾ることで、**広場全体を演出する景観**をつくります。
庇の構造については、基本的には通路の利便性に配慮し、無柱空間としますが、張出の大きな部分については適宜柱を設けることで**安全な構造計画**とします。



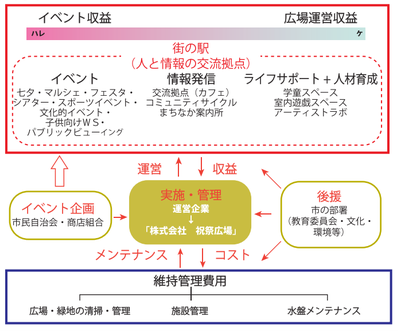
■多様な生活とイベントに対応する広場の利活用計画④

通常時には、水上桟敷や芝生の丘は**街の修景と憩いの空間**を提供します。また、施設の活動と合わせて、子供の遊び場やオープンテラスとしても機能します。イベントについては、**駅前周辺のフードイベントとの住み分けに配慮**し、スポーツ、アート、文化、子育て系のイベント活用を中心に展開することを考えた施設計画とします。イベントは、室内イベントでは体験できないような**自然体感型のイベントに特化**して企画することで、独自のイベント広場を目指します。



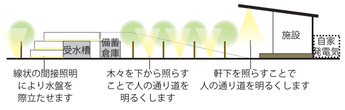
■周辺への波及効果を生む運営・管理

公園の管理・運営については、施設（カフェ・子育て関連スペース・創作レンタルスペース）を運営する企業等によって「株式会社　祝祭広場」のような特定の運営組織を立ち上げて、この組織が集客性の高いソフトを導入することで、**収益性を担保しながら、広場の維持管理**を行います。また、集客性を高めることで、周辺への回遊性・滞留性を高め、**周辺施設への波及効果**を高めます。



■安全・安心の環境整備

災害時に避難施設として機能するように、防災設備を整えつつ、日常時には**街の防犯対策**になるような照明計画を行います。



■市民と共につくる

計画段階から模型を使った参加型のワークショップや街歩きなどの体験型ワークショップを行うことで、地元の方の意見を積極的に取り込み、計画に反映します。また、工事段階では、**芝張体験**や、縁側テラスで使う**大分杉の板材**にはワークショップ参加者の記名を行うなどして、**広場に愛着を持ってもらえるような仕組みづくり**を行います。

ワークショップ

参加者の記名板

①

水面が立体的に連続し、空を映す水盤

②

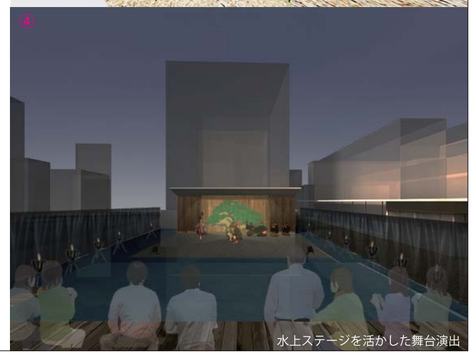
日常の憩いをつくる芝生の丘

③

庇面に設けられた花篭か彩る空中花回廊

④

憩いの水盤テーブルと通抜けできる水盤ブリッジ

④

水上ステージを活かした舞台演出